

# あつ

## 地域が見えてきた

### まちかど特派員を通して

地域の行事に自ら参加した体験談や、自らの視点で取材し記事にする仕事に携わる『まちかど特派員』。甲賀市となり初めての特派員として活躍いただいた皆さんに、1年を通して感じたことや、広報紙に対する意見などについてお話をいただきました。



杉山 祐子(水口町)

まちかど特派員の仕事は全体を通してすごく楽しかったです。

自分自身、テーマとして取り上げたいなど思うことはたくさんあり、自分の視野を広げられたと思います。やはり何を題材にするのかがすごく大事で、それによって読む人に提案できるような、また皆さんの話題のきっかけになるようなテーマや内容を選ぶように心がけてきました。

初めのうちは特派員という仕事はどこまでの作業をするのかわからず、またプロではないのでレイアウトなどはお任せになっていた所があると思います。次年度は役割分担をはっきりとしたいので、まちかど特派員が手伝えるような体制になっていけばいいですね。



上西 定雄(甲南町)

話題が地域に偏りがないように心がけましたが、甲南町といっても広いので各地域からの話題をつかむのに苦労しました。

しかし、以前に旧甲南町で特派員をしていた経緯もあり、その時に顔見知りになった方々からや、学校・保育園・公民館からも毎月情報をいただけたので、とても活動しやすかった。また広報紙に顔写真を掲載してもらったことで、甲南町だけでなく、様々な方々からも声を掛けられたことが大変うれしかったです。

ただ、私が取材に行けば必ず広報紙に掲載されるものだと思うこともあり、取材時に苦労したこともありました。実際は紙面にスペースがないこともあるので、掲載が見送られることも何度かあったことが少し残念でした。

## みんなのフリートークより

市内の良いところを紹介し、行ってみたくなるような記事を



市内でも

四季を通して蓮や藤などの花がたくさん咲いていますし、ホテルの見られる場所や観光スポットなどもたくさんあります。しかしそれら

を知らない方も多いのではないのでしょうか。そういった方々のために行ってみたいような四季折々の行楽スポットを写真を交えて広報紙で紹介してはどうでしょうか。



また、市内の図書館ではロビーコンサートや折り紙教室など、また地域の公民館では様々な講座や教室があると思います。そういった内容の記事を掲載することで少しでも行ってみたいと思ってもらえれば良いのではないのでしょうか。例えば旧町の広報紙にもありましたが、公民館で活動されているサークルを紹介し、見た人が少しでもやってみようかなと思うきっかけづくりになる、そんな広報紙になればいいと思いますね。

市民から関心のある「市長ぐるつトーク」



広報紙やホームページにも掲載されていますが「市長ぐるつトーク」

は市長を身近に感じることができるといふことで、市民には関心がありますね。今までは町長が身近なところで話す機会もあったと思いますが、合併して市長が遠くなったように感じる人が多いと思います。そういった中でこの取り組みは大変意義のあるものだと思いますよ。

広報紙は行政だけのものではない



市役所からの行事やお知らせなどの案内は市民に知らせるという

ことで大切なことだと思いますが、それに加えて担当課や担当者からの思い、雑感なども交えながら、かつ市民が登場する記事の方が読んでみたくなると思いますね。

よりリアルタイムな情報を



例えば「広報こうか」の地域のひろばのコーナーは毎月1日の1回しか

掲載されないのでイベント等が終わり随分と日が経過してからしか掲載できませんよね。そうした



小谷 柳太(信楽町)

甲賀市として全市にわたる題材は必要だと思いましたが、どうしても自分のまちのことだけを考えてしまいがちです。しかし良く考えるとそれで良いのではないかと思います。なぜなら、甲賀市となってより広域になったことで、自分のまちのことはわかるが、他のまちの観光スポットなどまではよく知らないということもあると思います。甲賀市のまちかど特派員として、そういった旧町を越えた市民の方々に自分のまちの良いところを紹介できたことが良かったと思っています。



富田 聡美(土山町)

この仕事を通じて自分の住んでいる土山には、改めていいところがあるのと再発見や、おすすめしたいスポットがあり、何でも記事になるのだと思いました。私は新年号での成年の方を探すのが大変苦労しました。しかし探すまでの間には初めての方とも話す機会があり、自分にとってすごくプラスになったと思います。自分は今までそういったことができなかったので、まちかど特派員を通して、いろいろな方々と話すチャンスを与えてもらえたと思っています。また話した方々の中には特派員をしていることをご存知の方も何名かおられ、すごく嬉しかったです。



瀬古 彰司(甲賀町)

まちかど特派員の記事として手始めに、地元のボランティアや各自治区の活動に焦点を絞り取材してきました。各地域でも様々な、ボランティア活動やまた素晴らしいアイデアで文化祭や体育祭などをされているところもあり、その中からユニークな取り組みについて取材してみたいと思いました。取材中「今度は私のところの区にも来てや」と依頼を受けたこともありました。紹介させていただいた紙面を皆さんに見ていただけたことに喜びを感じています。

1年目の取り組みであった「まちかど特派員」お話を聞いてみると皆さんやっつけて良かったという声をいただいたことは大変すばらしいことだと思えます。特にお話の中にもあったように「広報紙は市役所だよりではない」という言葉が印象に残りました。市役所からの一方的な案内ではなく、言葉をお借りしますが、市民の方が登場し、また皆さんの話題になるようなテーマや内容で、市役所と市民が一体となり作っていくものであると思えました。

『広報こうか』は4月1日から紙面を一部変更します。以降は1日、15日号とも『広報こうか』となり、よりタイムリーな内容を皆さんにお届けしますので、引き続きご愛読ください。  
\*3月15日号は通常のお知らせ版となります。

【問い合わせ】  
秘書広報課 広報公聴係  
☎65-0675 FAX 63-4619

となるよう皆さんからのご意見をお待ちしています。

できれば写真を大きく使用し、まず目で見てもらえるような紙面作りを心がけた方がよいと思えますね。といつてもページ数が多くなりすぎると逆に読みたくなくなると思うので、バランスが大切だと思います。

また、年間を通して見るように。そこで、今後歴代のまちかど特派員の方々には任期が終わってからも、地域の話題を寄稿できるように体制をつくっておけばどうでしょうか。

と読者は随分待たされることになり。かといつて先に写真や記事を推測で書くことはできず、できる限り市民の方々によりリアルタイムな情報をお知らせすることができれば良いと思います。

『まちかど特派員』現在のまちかど特派員の人数では掲載内容や地域に偏りがでてくるので、できれば各小学校区域に1名配置できれば、地域の隅々までの情報を取り上げられるようになるのではないだろうか。